

学生の意識調査(R7年度)

李永俊(弘前大学)
花田真一(弘前大学)

調査の概要

- 背景

- 東京一極集中が人口減少に拍車
- 大卒者の県外就職は歯止めがかからない状況

- 目的

- 本県大学生を取り巻く社会経済環境の影響を明らかにする。
- 地元に対する意識の形成経路の分析を試みる。
- 地元定着意思決定のメカニズムを明らかにする。

➡ 県内大卒者の県内定着の促進に向けた取組を推進するための基礎資料とする。

調査の概要

・調査目的

青森県における、若者（県内大学生）の県内定着に向けた取組を検討するための基礎資料とすることを目的とする。

・調査対象

あおもり人材育成・県内定着促進協議会参画の全高等教育機関等

- ・弘前大学は、医学部医学科を除く。
 - ・北里大学獣医学部は、十和田キャンパスに在籍の2年次以降の学生とする。
 - ・八戸工業高等専門学校は、4、5年次、専攻科1、2年次（大学1～4年次に相当）の学生とする。
- ※青森職業能力開発短期大学校は、他機関等と同様に本調査を実施するが、個別集計とする。

・調査方法

WEB調査（Microsoft Formsによる集計。チラシを配布し、QRコードでアクセス）

・調査期間

2025年4月1日～8月31日

・回収状況

回答数 7,225(48.4%)（内訳：1年生 2,646／2年生 1,900／3年生 1,454／4年生 1,225）

※八戸高専の高専4年(17名)、高専5年(17名)、専攻科1年(1名)、専攻科2年(3名)を、それぞれ大学1年生、2年生、3年生、4年生に変換した。

※ 中間報告書での学系分類について（資格取得をベースに分類）

文 系：文学部・人文社会科学部・経営経済学部・総合経営学部・社会学部・経営法学部・社会福祉・地域経営・福祉専攻
・コミュニティ福祉・生活科

教育学系：教育学部・生活創生学部（幼保の資格が取れるため）・幼児保育・保育専攻・保育科

理 系：ソフトウェア情報学部・理工学部・高専・工学部・感性デザイン学部・農学生命科学部

保健学系：保健学科・健康科学部・看護・助産・保健学部・健康医療学部・食物栄養（管理栄養士は保健と分類）・救急救命・口腔衛生
・介護福祉学科・調理師養成・介護福祉

薬 学 系：（薬剤師は免許が異なるため）

獣医学系：（獣医師は免許が異なるため）

調査の概要

- ・回答数7,225のうち、有効回答数は7,184(性別無回答除く)
- ・県内出身者61.6%(62.6%) : 県外出身者38.5%(37.4%) 括弧の中、R6年度。
- ・男性46.6%(42.3%) : 女性53.4%(57.3%)

※性別は無回答を除く

	文系	教育学系	理系	保健学系	薬学系	獣医学系	合計	
県内出身者	1,196	778	1,111	1,292	40	5	4,422	61.6%
男性	566	156	832	309	13	1	1,877	
女性	630	622	279	983	27	4	2,545	
県外出身者	604	285	1,079	740	9	45	2,762	38.5%
男性	337	92	815	214	5	10	1,473	
女性	267	193	264	526	4	35	1,289	
合計	1,800	1,063	2,190	2,032	49	50	7,184	100.0%
男性	903	248	1,647	523	18	11	3,350	46.6%
女性	897	815	543	1,509	31	39	3,834	53.4%

調査から見える学生の傾向

○県内出身者の57.6%(59.8%)は、県内で働くことを希望している(①)

○学部別では、薬学、教育の県内就職希望者の割合が高く、理系の割合が低い(②)

	就職地を県内希望							就職地を県外希望						
	文系	教育学系	理系	保健学系	薬学系	獣医学系	合計	文系	教育学系	理系	保健学系	薬学系	獣医学系	合計
県内出身者	691	528	520	780	28	1	2,548	505	250	591	512	12	4	1,874
	57.8	67.9	46.8	60.4	70.0	20.0	57.6	42.2	32.1	53.2	39.6	30.0	80.0	42.4
男性	331	112	381	182	9	0	1,015	235	44	451	127	4	1	862
	58.5	71.8	45.8	58.9	69.2	0.0	54.1	41.5	28.2	54.2	41.1	30.8	100.0	45.9
女性	360	416	139	598	19	1	1,533	270	206	140	385	8	3	1,012
	57.1	66.9	49.8	60.8	70.4	25.0	60.2	42.9	33.1	50.2	39.2	29.6	75.0	39.8
県外出身者	39	18	29	49	1	1	137	565	267	1,050	691	8	44	2,625
	6.5	6.3	2.7	6.6	11.1	2.2	5.0	93.5	93.7	97.3	93.4	88.9	97.8	95.0
男性	20	5	19	12	1	1	58	317	87	796	202	4	9	1,415
	5.9	5.4	2.3	5.6	20.0	10.0	3.9	94.1	94.6	97.7	94.4	80.0	90.0	96.1
女性	19	13	10	37	0	0	79	248	180	254	489	4	35	1,210
	7.1	6.7	3.8	7.0	0.0	0.0	6.1	92.9	93.3	96.2	93.0	100.0	100.0	93.9
合計	730	546	549	829	29	2	2,685	1,070	517	1,641	1,203	20	48	4,499
	40.6	51.4	25.1	40.8	59.2	4.0	37.4	59.4	48.6	74.9	59.2	40.8	96.0	62.6

※性別は無回答を除く

○学年進行とともに低下傾向(③)

n=4,422	文系	教育学系	理系	保健学系	薬学系	合計
1年	58.9	72.3	51.0	62.1	75.0	60.6
2年	56.6	67.2	45.5	60.0	100.0	57.2
3年	52.6	70.2	43.3	58.0	55.6	54.7
4年	62.0	50.6	46.1	59.8	50.0	55.1
計	57.8	67.9	46.8	60.4	70.0	57.6
4年-1年	3.2	△ 21.6	△ 5.0	△ 2.2	△ 25.0	△ 5.5

調査から見える学生の傾向

○県内出身者が**県外**就職を希望する理由

- ・「別の場所で生活してみたい」、「都会の方が便利」の割合が高い(特に**女子学生**)
- ・次が「給与や待遇」、学年の進行とともに「希望する企業がある」が高まる

		女子 (1,012)				男子 (862)			
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年
ウ ー ク	希望する企業があるから	102(28.7%)	42(34.2%)	31(30.3%)	35(43.7%)	63(27.2%)	64(32.9%)	49(34.2%)	41(51.7%)
	希望する給与や待遇が期待できるから☑	140(39.4%)	91(33.8%)	70(35.4%)	93(48.9%)	97(32.6%)	74(31.6%)	56(29.9%)	46(32.2%)
	自分の能力が活かせそうだから	63(17.7%)	42(15.6%)	31(15.7%)	35(18.4%)	63(21.1%)	64(27.4%)	49(26.2%)	41(28.7%)
	研修制度が充実しているから	22(6.2%)	23(8.6%)	25(12.6%)	38(20.0%)	17(5.7%)	14(6.0%)	12(6.4%)	21(14.7%)
	親と家族の勧めで	10(2.8%)	9(3.3%)	2(1.0%)	6(3.2%)	9(3.0%)	6(2.6%)	2(1.1%)	5(3.5%)

ラ イ フ	都会の方が便利だから	184(51.8%)	123(45.7%)	101(51.0%)	96(50.5%)	140(47.0%)	99(42.3%)	75(40.1%)	56(39.2%)
	出身地域と別の場所で生活してみたいから	185(52.1%)	123(45.7%)	102(51.5%)	88(46.3%)	119(39.9%)	91(38.9%)	63(33.7%)	51(35.7%)
	その地域が好きだから	69(19.4%)	52(19.3%)	48(24.2%)	30(15.8%)	83(27.9%)	58(24.8%)	32(17.1%)	21(14.7%)
	知人が多いから	26(7.3%)	21(7.8%)	22(11.1%)	18(9.5%)	28(9.4%)	14(6.0%)	14(7.5%)	16(11.2%)
	親や家族を支えたいから	15(4.2%)	15(5.6%)	20(10.1%)	7(3.7%)	26(8.7%)	21(9.0%)	12(6.4%)	9(6.3%)

※複数回答、性別無回答者を除く

調査から見える学生の傾向

○県内出身者が就職先を選ぶ際に重視する点(県内就職希望者)

(複数回答)

	希望産業							
	公務	情報通信業	金融・保険業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊・飲食サービス業	生活関連サービス・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉
希望の勤務地で働ける	38.7	33.1	42.6	34.4	31.6	30.9	35.3	33.3
仕事内容が魅力的	32.0	26.3	20.4	37.0	35.0	37.0	36.5	26.1
労働環境がいい	61.3	68.8	59.9	70.1	57.8	62.3	62.9	66.3
休日・休暇が多い	48.3	50.6	56.2	44.2	49.5	48.1	38.6	41.5
福利厚生が整っている	44.6	46.9	46.3	35.7	46.6	44.4	39.5	50.4
将来性がある	12.0	10.6	13.0	11.0	10.2	7.4	15.0	13.2
社会への貢献度が高い	9.4	6.3	5.6	9.1	8.7	10.5	10.3	7.5
給料が高い	43.8	44.4	44.4	44.2	50.5	45.1	51.4	53.0

○県内出身者が就職先を選ぶ際に重視する点(県外就職希望者)

(複数回答)

	希望産業							
	公務	情報通信業	金融・保険業	学術研究・専門・技術サービス業	宿泊・飲食サービス業	生活関連サービス・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉
希望の勤務地で働ける	23.0	24.4	19.0	19.3	16.7	20.3	22.6	23.2
仕事内容が魅力的	35.3	30.8	31.6	50.4	41.4	41.5	34.8	28.5
労働環境がいい	61.9	60.2	58.6	57.8	62.1	58.5	62.9	64.6
休日・休暇が多い	48.1	50.2	42.0	35.2	41.4	42.0	46.8	42.1
福利厚生が整っている	44.3	43.7	47.7	47.1	45.5	44.3	44.2	51.3
将来性がある	13.6	20.8	16.7	18.4	17.2	18.4	12.3	13.0
社会への貢献度が高い	5.7	3.6	1.7	7.0	4.5	4.7	6.1	6.7
給料が高い	50.4	49.5	57.5	47.1	53.0	45.8	53.5	59.4

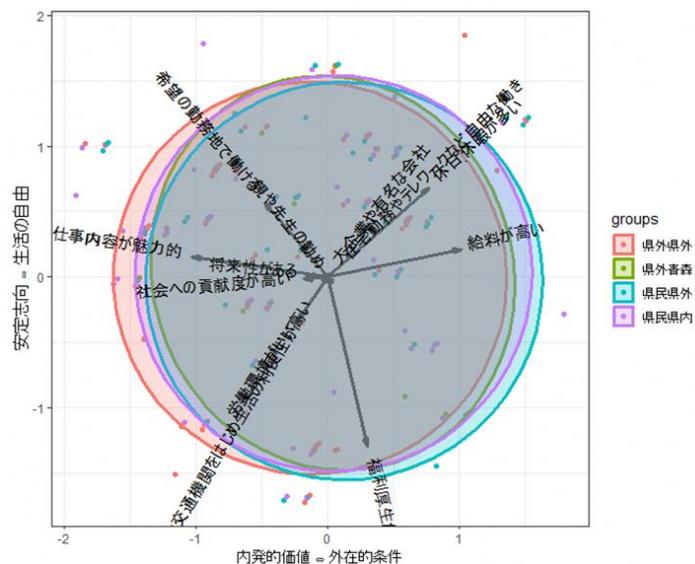
調査から見える学生の傾向(追加分析)

	県内就職希望者	県外就職希望者
県内企業に対するイメージ	<p>県外出身者の場合、地域密着性やアットホームな雰囲気の評価</p> <p>県内出身者は強い特徴がない</p>	<p>県内出身者の場合、労働条件や将来性を低く評価</p> <p>県外出身者の場合、特定のイメージを持たない</p>
重視する視点	令和7年調査では、どちらも賃金・休日・福利厚生などを重視	
	学年が上がるにつれて、仕事内容の魅力や希望勤務地を重視する傾向	

※主成分分析とは

多次元データを少数の次元に圧縮する統計手法。

- 県内企業イメージについて**
 - 第1主成分: イメージの有無(関心の有無)
 - 第2主成分: ポジティブかネガティブ化
- 就職先選択で重視する要因について**
 - 第1主成分: 内発的価値—外生的条件軸
 - 第2主成分: 生活自由度—安定軸



調査から見える学生の傾向(追加分析)

企業イメージの主成分スコア (PC1、PC2) と、重視する項目の主成分スコアに基づいて、回答者を4グループにグループ分け

- ・ イメージPC1：イメージの有（負）、無（正）
- ・ イメージPC2：良い（負）、悪い（正）
- ・ 重視項目PC1：条件重視（正）、価値重視（負）
- ・ 重視項目PC2：生活自由度重視（正）、安定重視（負）

※重視項目PC1

正：給料が高い、休日が多い、福利厚生が整っている⇒条件重視
負：仕事内容が魅力的、希望勤務地⇒価値重視

※重視項目PC2

正：休日が多い、希望勤務地⇒生活自由度
負：福利厚生が整っている、労働環境がいい⇒安定重視

就職希望 出身地	青森県		県外	
	青森	県外	青森	県外
グループ1	35%	33%	37%	30%
グループ2	14%	5%	17%	10%
グループ3	21%	25%	19%	32%
グループ4	30%	37%	26%	28%
	100%	100%	100%	100%

	人数	イメージ 有無	イメージ 良悪	重視項目 (条件、価値)	重要項目 (生活自由度、安定)
グループ1	2,449	-0.176(有)	-0.770(良)	0.151(条件)	-0.544(安定)
グループ2	938	-0.770(有)	0.442(悪)	0.226(条件)	0.358(生活自由度)
グループ3	1,790	0.748(無)	0.336(悪)	0.023(条件)	0.153(生活自由度)
グループ4	2,048	-0.090(有)	-0.411(良)	-0.304(価値)	0.353(生活自由度)

調査から見える学生の傾向(追加分析)

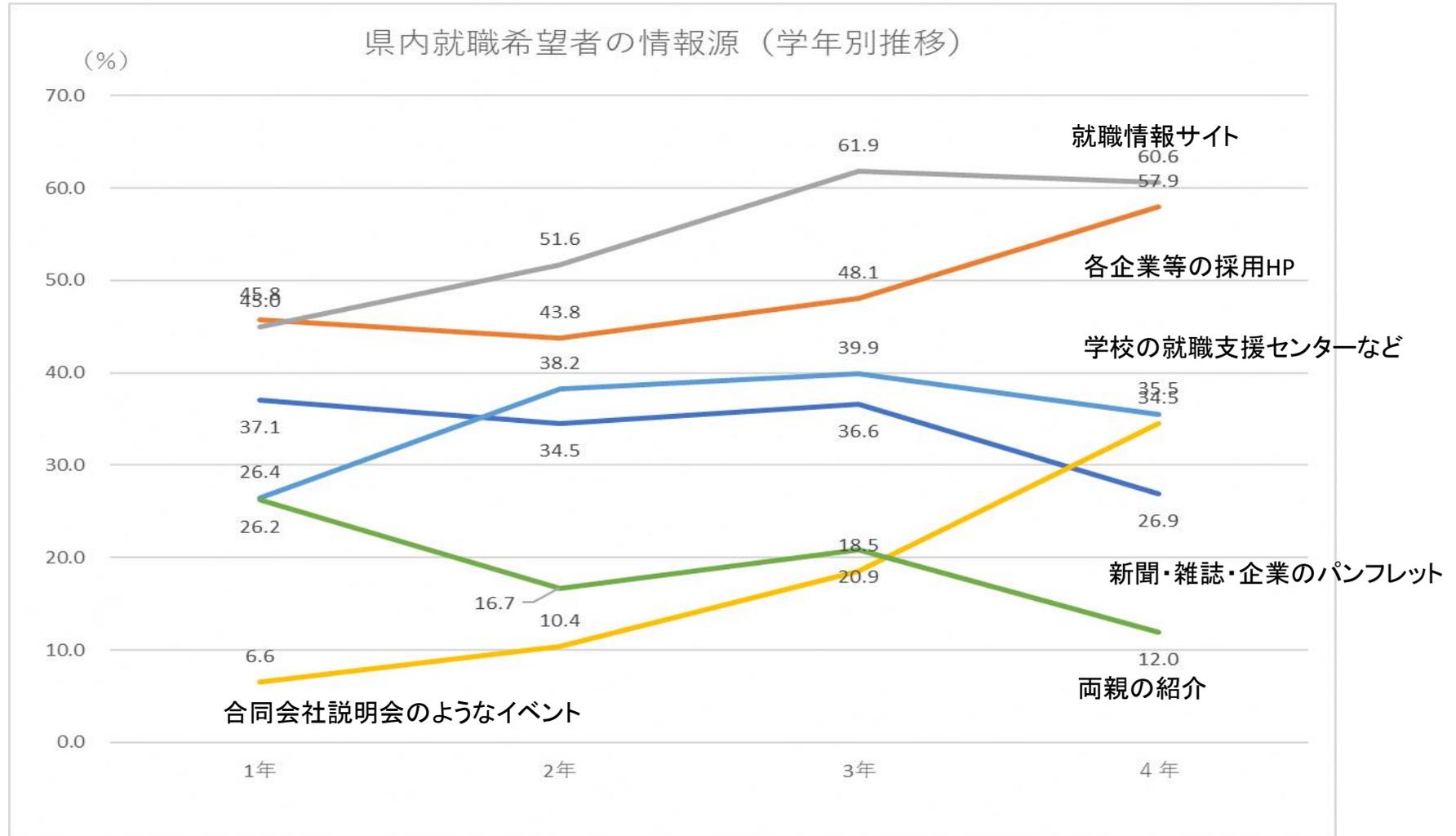
グループ名	傾向	主な構成主体
グループ1 (良いイメージで安定志向)	イメージ:ポジティブ 重視項目:条件・安定	青森出身×県外就職希望
グループ2 (悪いイメージで生活重視)	イメージ:ネガティブ 重視項目:条件・生活自由度	青森出身×県外就職希望
グループ3 (イメージなく生活重視)	イメージ:なし 重視項目:条件・生活自由度	県外出身×県外就職希望
グループ4 (良いイメージで働き甲斐重視)	イメージ:ポジティブ 重視項目:価値・生活自由度	県外出身×青森県就職希望

企業イメージと重視する項目を組み合わせることで回答者をグループ分け

- ・4グループに分けられる
- ・グループ1とグループ3は重視項目との合致から県外就職を希望している
- ・グループ2は企業イメージが悪い⇒企業イメージの向上により県内就職意欲を高められる可能性あり
- ・グループ4は県外出身だが、県内企業イメージが良く、仕事内容や休日・勤務地を重視⇒傾向として、まちづくりボランティアなどの経験率が高く、地域愛着や幸福度が高い⇒地域との交流により、県外出身者の県内就職を促せる可能性あり

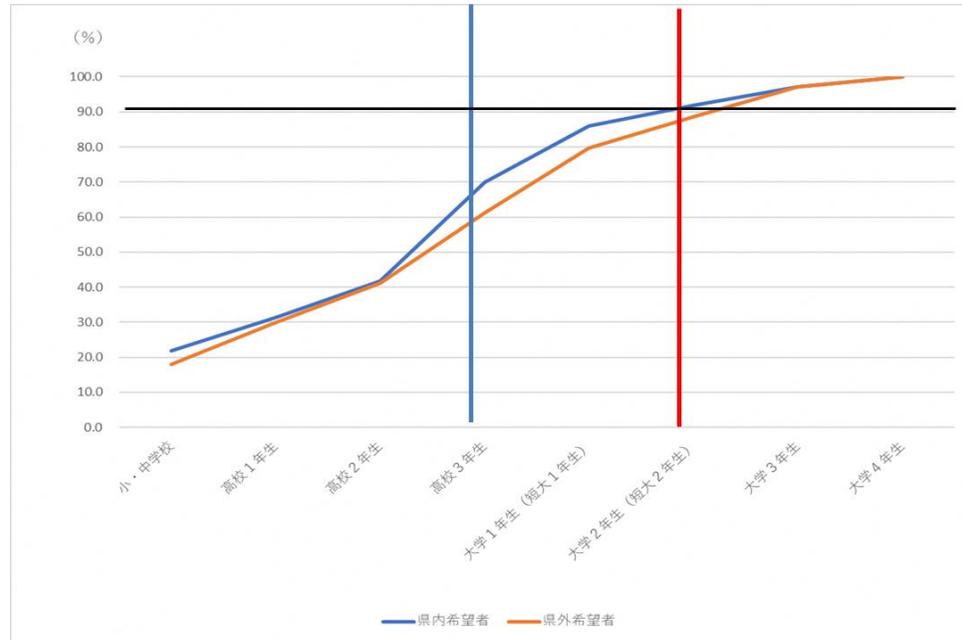
調査から見える学生の傾向

- 就職に関する情報源の主なものは就職情報サイトと各企業等の採用ホームページ
- 就職活動の具体化とともに学校の就職支援センターや合同企業説明会を活用



調査から見える学生の傾向

○ 大学入学前までに、県内希望者の約7割、県外希望者の約6割が希望初職地を決定。



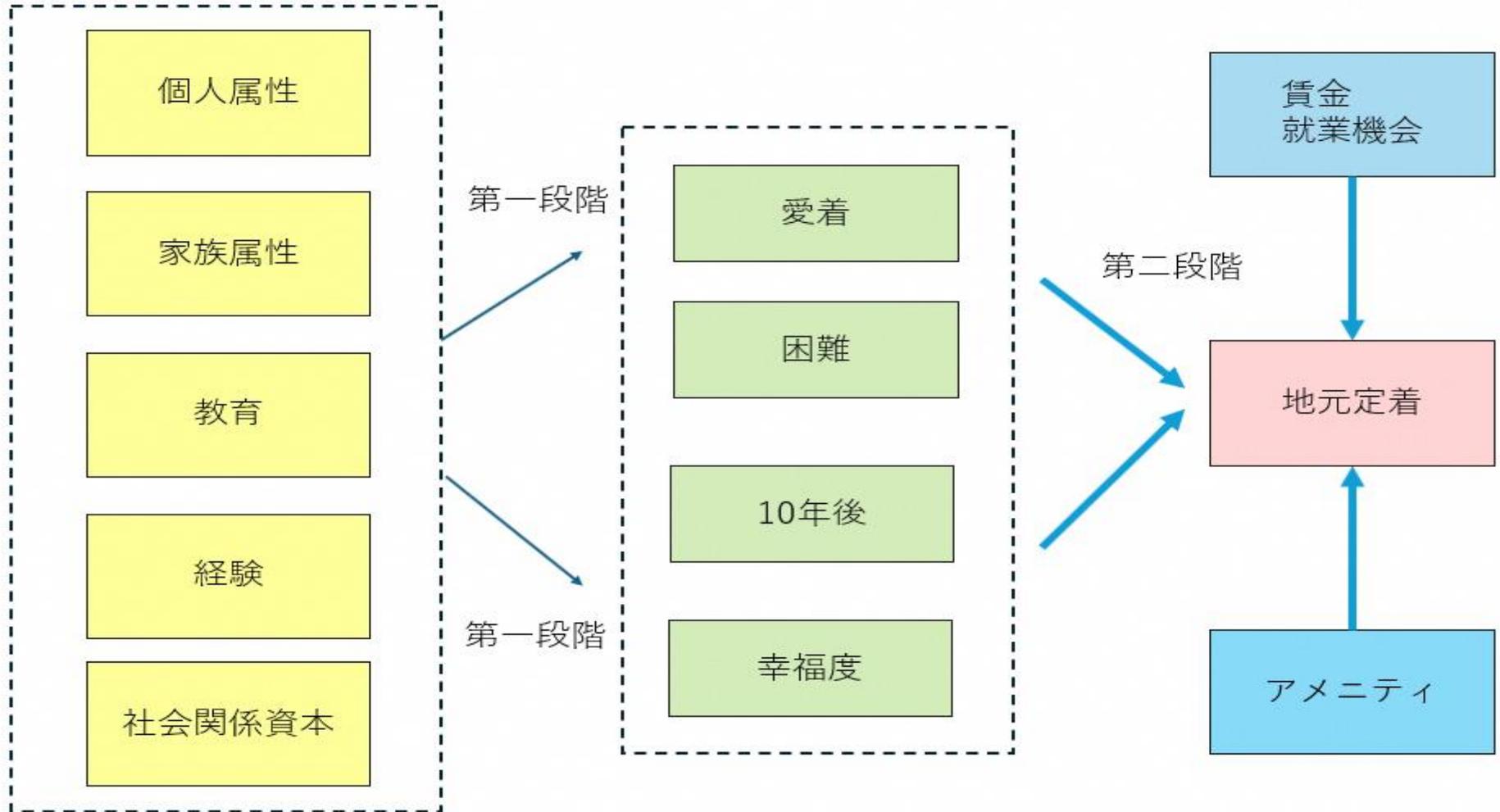
○ 決定時期に関わらず理由は一貫。県内は環境、県外は利便性と労働条件

(複数回答)

希望理由	大学進学まで		大学1～2年		大学3～4	
	県内	県外	県内	県外	県内	県外
希望する企業があるから	11.2	33.9	11.8	29.6	18.7	43.4
親や家族を支えたいから	51.2	7.4	46.1	6.2	47.8	3.8
出身地域が好きだから/その地域が好きだから	51.8	23.3	34.9	18.7	36.4	13.7
就職後の生活が精神的に楽だと思ふから	39.0	13.5	41.2	10.9	41.6	12.3
希望する給与や待遇が期待できるから☑	2.9	37.7	4.5	32.7	5.3	31.1
物価が安く、経済的な負担が少ないから/出身地域と別の場所で生活してみたいから	14.9	45.5	17.7	42.3	21.5	38.7
住み慣れていて便利だから/都会の方が便利だから	62.3	50.8	53.9	40.9	49.3	37.7

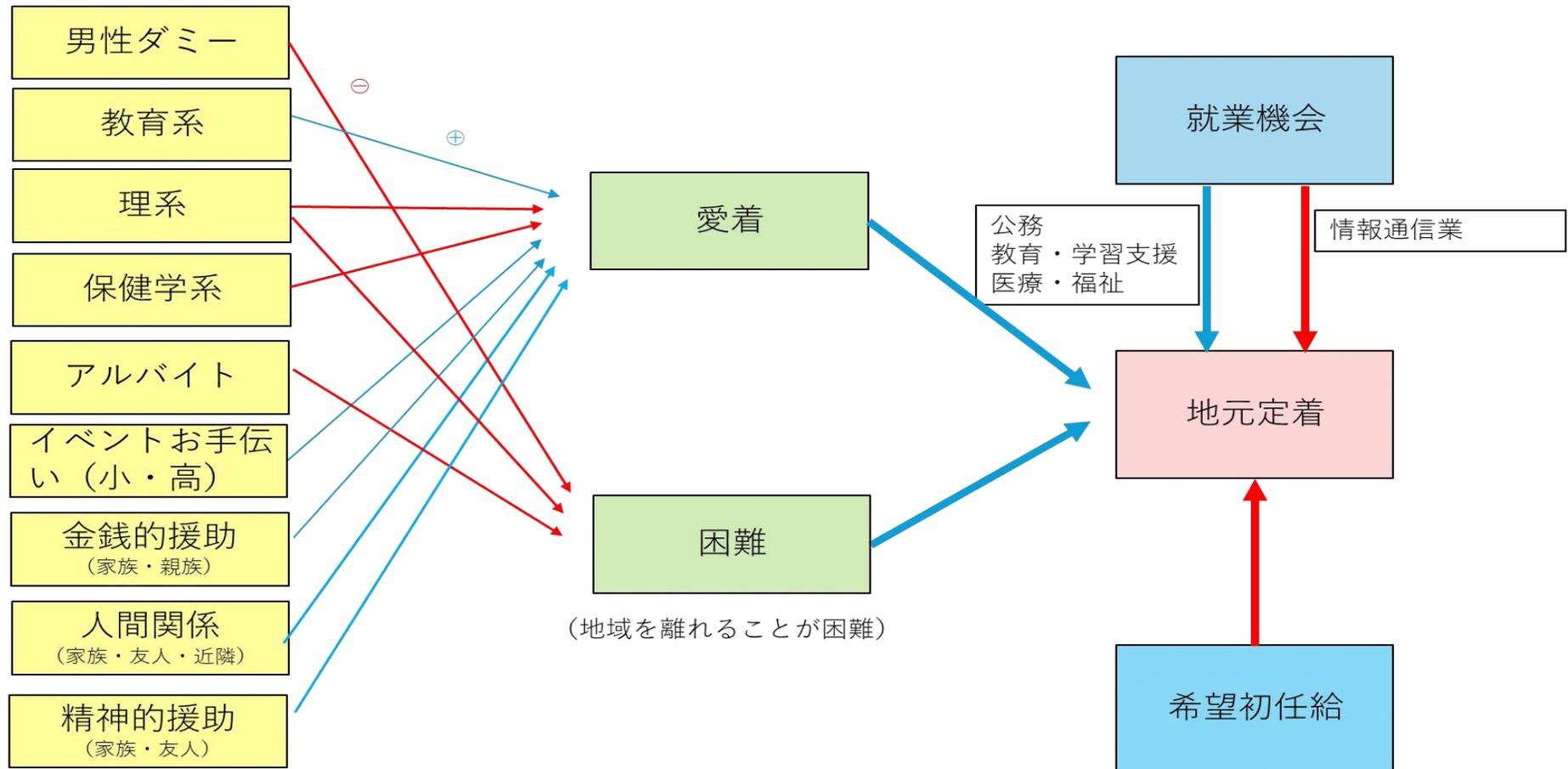
地元愛着と県内定着の相関性

- 分析結果の安定性を確認するため、R6年度と同じ方法で分析を行った。



構造モデル分析のまとめ

- 「愛着」と「困難さ」はR6年度と同じ結果。地元定着可能性を高める。
- 地域活動の体験や良好な人間関係は「愛着」を高め、地元定着可能性を高める。
- 男性、アルバイトの経験は、「困難さ」を低下させ、移動可能性を高める。



奨学金返還支援制度の認知と地元就職率

○ 県内出身者の希望初職地別に奨学金返還支援制度の認知度。

	1年	2年	3年	4年
県内希望 (2,548名)	204(20.3%)	162(24.1%)	134(28.9%)	164(40.1%)
県外希望 (1,874名)	122(18.7%)	111(22.1%)	89(23.1%)	105(31.5%)

○ 傾向スコア分析(PSM):性別・学部・出身地・志望職種などが違くと、もともと地元就職しやすさが異なる。そこで、条件がよく似た学生同士を比べた。

対象	何が分かったか	政策効果
制度を知っている学生 (ATET)	知らなかった場合と比べて	+3.6ポイント
学生全体 (ATE)	制度認知が広がった場合	+5.3ポイント

奨学金返還支援制度は認知度が20.2%と低いものの、地元就職率を約5.3ポイント押し上げる強い政策効果が期待される。

調査から見える学生の傾向

○ 学年進行と共に希望初職地が変化する学生が約2割存在する。

属性		タイプ				合計 (括弧内人数)
		R6県外・R7県外	R6県外・R7県内	R6県内・R7県外	R6県内・R7県内	
県内	男性	37.2	7.8	11.6	43.4	100.0(129)
	女性	30.5	7.0	10.8	51.6	100.0(213)
	計	33.0	7.3	11.1	48.5	100.0(342)

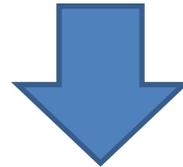
○ 希望する理由では、R6県内R7県外では環境要因が大幅に減少し、労働条件が増加している。

希望理由	(複数回答)			
	R6県内・R7県内		R6県内・R7県外	
	R6	R7	R6	R7
希望する企業があるから	8.5	10.2	11.1	24.4
知人が多いから	30.1	32.4	26.7	13.3
親や家族を支えたいから	54.0	56.8	44.4	8.9
出身地域が好きだから/ その地域が好きだから	63.1	55.7	33.3	20.0
就職後の生活が精神的に楽だと思うから	44.3	48.3	40.0	17.8
希望する給与や待遇が期待できるから☑	1.7	2.8	6.7	20.0
物価が安く、経済的な負担が少ないから/ 出身地域と別の場所で生活してみたいから	17.0	17.6	24.4	31.1
住み慣れていて便利だから/ 都会の方が便利だから	68.8	65.3	71.1	42.2

学生の意識調査から見える課題と提案

- 県内就職を希望する学生の割合は、学年進行とともに減少
特に、理系や保健系の学生の希望割合が低い又は減少幅が大きい
- 学生が就職先を選択する際に重視する点は、「労働環境」「福利厚生(休日休暇)」「賃金」
県外就職を希望する学生は、上記のほか働きたい企業があることも理由
- 希望初職地の意思決定が大学入学前が約7割。早い段階でのキャリア教育が必要

協議会の構成員が**連携・協力**し、以下に取り組むことが重要



- 学生の地元愛着や県内企業への理解をさらに深める取組
- 早期の意識形成を踏まえ、小中高段階からのキャリア教育の充実
- 学生が求める企業の職場環境等の向上や仕事づくり